

宇宙開発戦略本部 宇宙開発戦略専門調査会 第16回会合
(議事要旨)

1. 日時 平成23年6月21日(火) 11:00-13:00

2. 場所 官邸4階 会議室

3. 議事概要

(1) 開会

葛西座長より開会が告げられた。

(2) 宇宙開発利用の戦略的推進のための施策の重点化及び効率化の方針について

[議事概要]

山川宇宙開発戦略本部事務局長より、資料1に基づき、宇宙開発利用の戦略的推進のための施策の重点化及び推進方策に関する説明があり、議論を行った。

その結果、準天頂衛星システムについて、多くの委員から24年度予算から最優先に取り組むべき課題であることについて意見の一致を見た。

その他の分野のプロジェクトについては、24年度予算で措置すべき優先度の高いもの、優先度の高いものを実施したうえで予算上可能であれば実施すべきもの、今後検討を継続すべきものという大きく3つ類型に分け優先順位をつけること、及び各プロジェクトの優先順位についての基本的な方向について了承された。

委員から出された意見を踏まえ、国際宇宙ステーション、R&D、宇宙探査、人材育成に関する書き振りについて、次回までに事務局で修正を行い、次回再度議論することとなった。

委員からの主な意見は以下の通り。

- ・ R&Dや人材育成に関しても記載すべきではないか。
- ・ 今回の資料は、これまでの議論してきた結果をペーパーにまとめたものであり、宇宙科学、有人、太陽光発電、ロケット、PFIなど

議論してきた内容を反映したものである。

- ・準天頂衛星はじめ各プロジェクトが、安全保障にどう関連するかについて、より具体的に書き込むべきではないか。
- ・I S A SとJ S P E Cのプロジェクトについては、I S A Sに一元化すべきではないか。
- ・宇宙科学に関して、科学的議論がなされずに、国民的人気や国策だから実施するという進め方は問題である。
- ・準天頂衛星のテーマでニーズとシーズのマッチングについて落とし込んでもらいたい。それが、産業界としての具体的な展開の方針に繋がってくる。
- ・産業界が需要を拡大させるための努力をしたり、市場を創造するための努力をしないと経済成長戦略に結びつかない。
- ・準天頂衛星は大事なプロジェクトで利用の開拓や海外展開など複数省庁にまたがる作業を実施していかななくてはならないので、内閣府が実施していくのがいい。
- ・「だいち3」に関して、リモセンWGにてハイパースペクトルセンサーのようなものは重要であるとの意見があり、衛星が予算の都合で駄目になっても、センサーの開発が無駄にならないようにすべき。
- ・今の現実が宇宙基本法とずれており、科学技術に偏りすぎ。今回プライオリティ付けをし、きちんと見直しプロセスを入れ、それを一元的に管理していただきたい、それは先送りすべきではない。
- ・宇宙科学の説明を受けた際に、「はやぶさ2」みたいなものをやれという声があって、「はやぶさ2」の実施が決まったという話を聞いて、一国民としてショックを受けた。宇宙科学予算の決め方について少し言及すべきではないか。
- ・「はやぶさ2」はI S A Sのミッションではない。それは、昨年、政策コンテストがあり、日本を元気にするための予算の募集があった。宇宙科学のこの分野を、単に国民の支援があったから、宇宙科学のことを評価しないで「はやぶさ2」が決まったというのは誤解である。
- ・国際宇宙ステーションに関しては、国際プレゼンスを発揮しているというような前向きな書き方もできるのではないか。
- ・これまで宇宙科学において、理学、工学の学術的視点から検討し、

ボトムアップでやってこなかったものは1つもなかったし、今後もそうだろう。

・宇宙探査については、段落を分けて別項目に書いた方がよい。

[議事の詳細]

主な質疑応答は以下の通り。(○は委員発言、●は事務局発言)

- このポジションペーパーは産業主流にかなり偏っている。例えば継続的に、サステナブルな宇宙開発を行うためのR&Dとか人材育成が入っていない。また、議論のための情報を提供しているのか、もう既に方針を決定しているのかが混在して書かれているため、その位置づけが分からない。このペーパーの作成に使用した情報源は何なのか。例えば、「ASNARO」と「だいち」の例では、既に、「ASNARO」の優先というプライオリティ付けができていますが、これは誰が決めたのか。このペーパーの出典が明確でないと、議論しても末梢の議論だけ。本来この委員会は、国として宇宙政策を、大所高所で議論すべき。何を基にこのペーパーが出て、どういう方針で既にプライオリティを決めているのか説明して頂きたい。
- 基本的資料は、第10回から15回までの宇宙開発戦略専門調査会の資料ヒアリングでの議論、そして、準天頂衛星とリモートセンシングについては、専門調査会の下にWGが設置されており、そこでの議論の結果などを踏まえて作っている。
- ヒアリング情報を踏まえて委員同士が、お互いがそれをどう思うかという議論があり、また子委員会であるWGから話を聞き、その上でこのような優先順位付けが出てきているのであれば、今日のポジションペーパーとして理解できるが、このプロセスが、私も委員をやっていながら全く分からない。こんなにプライオリティをつけるほどの議論を本当にしたのか、疑問である。
- どこに反対なのか。ずっと議論をした結果を、ポジションペーパーに反映した。そう物事を進めていかざるを得ない。どこがベースかと言えば、ここでの議論。宇宙科学は重要だとここで議論をした。有人、宇宙太陽光発電、それもここで議論した。産業競争力強化は、こういう時代であり、予算は何も研究者、ロケット屋、宇宙村だけにやるわけではなく、民に対して、プライベート・イニシアチブのようにやる

必要があるという議論はやった。例えば、固体ロケットの技術も安保上重要なので、きちんと持つべきとか、そういう議論はやった。どこが反対なのか。

○例えば、1つは宇宙科学。論点は何かを事務局が整理してほしいと、私は第14回でお願いしたが、その整理をしたという報告が委員にないまま、この優先順位の結果が出てきてしまっている。また、例えば、「ASNARO」と「だいち」を比較し、この結果を出すための議論しただろうか。

ここで葛西座長より次の発言があった。

・これまでいろいろ議論があり、今回まとめの作業に入っている。今までの議論を集約しようということ。毎回初めから議論すると、前に進まない。今日のこのペーパーをベースにして議論して頂きたい。

続けて次のような発言があった。

○ニュートラルなところから皆が議論するのであれば分かるが、ここでは既に、これは予算措置すべき、しないべきと、議論の前に決まっている。ここでは、そういう形で議論をするのか。

ここで葛西座長より次の発言があった。

・重点化、効率化がテーマなので、今までヒアリング等で出された中で何を重点化し、何を早くやらなくてはいけないか、この委員会として議論の集約の提案になっている。従って、何か意見があれば、それは言って頂き、集約すればいい。

続けて次のような発言があった。

○定量的、定性的な評価尺度がほとんどないままに議論が行われているという、会議運営のやり方自体に疑問、不透明感を持っている委員も多いのではないか。

●前回、この資料とほとんど骨格が変わらないものを、議論して頂いた。その時のコンセンサスは、準天頂が非常にプライオリティが高いということ。今後プライオリティを検討すべきものは、「だいち3」、「だいち2」、宇宙科学等、幾つかあるとはっきり明記した資料を出し、この資料は語尾が変わっているだけ。それを御議論頂き、前回の議論を基に今回、更に一歩進める形で、事務局として一応紙を作らせて頂いた。委員の方々に御議論して決めて頂きたい。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・これまで議論は随分積み重ねてきており、その上で、現実的に1歩踏み出そうと決めるのがこの専門調査会。具体的に来年度の予算に当たっての重点化が課題。
- ・時間が幾らでもかけて議論だけしていればいいという話ではなく、何らかの結論を得なくてはいけない。是非、結論を得る前提で議論を進めて頂きたい。

続けて次のような発言があった。

○タイトルに「東日本大震災を踏まえた」と付いているが、いかにも予算を取るためにこれを付けたという感じの文書になっている。東日本大震災は重要、防災・減災は重要で、そのために宇宙を使うことについて私は強く共感する。今年、当然ながら予算措置で東日本大震災復興関係ということが出るので、こういうことを書かないと、予算の優先順位が下がるのではないかという気持ちが表れている文書として、政治、行政の方はそれとを考えざるを得ないという現実があると思うが、この専門調査会は基本的に専門家として意見を申し述べるということであり、宇宙関係であっても、政府の予算獲得のために支援をするという文書になるのは、いかがなものか。

施策の重点化ということで5つ挙げられ、③に「東日本の復興と巨大リスクに備えた経済社会構造の確立」とあるが、それをタイトルにまで掲げた割には、その後、具体的にどう関わるかが十分書かれていない。準天頂のところでは安否確認云々と書かれており、多少はあるが、この内容が③にどう関わっているかということ、特に「東日本の復興」と書いてあるが、復興とどう関係しているのかよくわからない。従って、文書の中身について、もう少ししっかりと論理性を付けて頂きたい。

それから「④安全保障の確保」と書いてあるが、中身は全然出てきていない。トップのところには書いてあり、全然というのは言い過ぎで、防衛省とかも多少出てくるが、あまり安全保障の確保に宇宙がどう関わるかは書かれていない。

座長がおっしゃることは勿論正論だと思うし、この会議は別に学術の会議ではないので、議論をするためのものではないが、やはり過去の政策を考えると、その場の流れによって予算措置や方向性を決めて、後で困ったことになったというのが、例えば原子力の問題で出ている

わけで、それらについてこの専門調査会として、専門家がそれなりの議論と了解をしたということは、やはり必要ではないか。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 前回の会議でもこれと同じ議論が1回あった。その中で準天頂を最優先、最重点の事項とするということについて、委員の了承が得られたと私は理解している。
- ・ 東日本復興の巨大リスクに備えた云々というのは表現の問題であり、いささか政治的配慮、予算的配慮を含め過ぎているのではないかとわれれば、確かにそのとおりのかもしれない。
- ・ ただし、実際問題として具体的にことを進めていく上で、その種の配慮について言及をすることは、極めて現実的な話だと思うので、言葉を変えた方がよければ、こう変えた方がいいとおっしゃって頂ければいい。

ここで細野総理大臣補佐官より次の発言があった。

- ・ 今の委員のお話に、若干コメントさせて頂きたい。この部分は東日本大震災に関わるという書き方がスムーズな気がする。
- ・ 安全保障については、宇宙基本法を作った時もそうだったが、安全保障というのは言わずもがな宇宙と直結しており、絶対欠かせない要因であるというのは、この分野に関わる人は皆よく分かっている。一方で、これを余り前面に出し過ぎることにより、例えば民生とのバランスが崩れるのではないかと、これまでの日本の宇宙開発の歴史から大きく逸脱をするのではないかと、という懸念が政治的にも示されてきたので、なかなか前面に出しにくいという事情がある。
- ・ むしろ安全保障の利用についてしっかり書いた方が、国民的な理解も得られやすい状況になっており、特に日米同盟の在り方にも前向きな1歩にもなると思うので、そこはここで御議論頂き、そういったことをむしろ書くべしということであれば、私は1歩踏み出すべきタイミングではないかと思う。

続けて次のような発言があった。

○私個人としては書くべしと思う。他の委員の先生方は、勿論、御意見はあると思うが、個人的には、今、御説明頂いたようなことについて、やるつもりがあるのに書かないということにどういうメリットがあ

るのか正直理解ができないので、その点についてはきちんと、含むところなく書いて頂いた方がいいと思う。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 本資料では、具体的に予算措置を要求していくということと、今後検討していくということ、大きく2段階に分けて書いてある。
- ・ 私の印象では、これまでの議論を比較的反映していると理解している。勿論、本日、新しい意見が出てきてもいいが、この時期に何をやるかというところに焦点を合わせて御議論頂ければと思う。

続けて次のような発言があった。

○前回の議論において、どなたかが前回のまとめでは優先順位も何も、原案としては書いていないという発言があり、確かにそうで、それをつけるのがここの役目ということで、議論を踏まえて事務局でこういうことかどうかという案をつくるのは当然だと思う。それを踏まえてこういう案が出てきたと理解している。その中で、私が個人的に非常に重要だと思ったのは、1つは準天頂衛星で、これは一番優先順位が高く時間的にすぐにやるべき課題。しかも、これは先ほどから議題になっている東日本大震災、安全保障等に一番絡む問題で、来年度予算に関してはこれが一番重要な問題。全部横並びで同じように書くよりは、そこが特別になるような書き方だろう。とにかく、ここで議論をして順位づけをした原案という意味ではどこかでまとめなければいけない。今までの議論を踏まえると、こんなものだろう。今までで一番議論になって、重要だという認識を皆さんが持ったのは準天頂衛星であろう。その点を是非、しっかりとわかるような形でまとめて頂きたい。それから、宇宙科学というか、R&Dについては、利用とR&Dとは車の両輪である。今まで利用がなかったというか、余り重要視されていないので、今回こういう形で、利用が非常に強調されて書かれていると理解している。言葉として出ないのでR&Dが軽視されるということではないと思う。宇宙科学に関しては、JAXAの中にISASがあり、そこがこれまでいろいろやってきた。ISASとNASDAの統合後、理学・工学をどうやるか、今までと違うような体制が生まれてきて、いろいろな問題が起こっているのが、ISASとJSPECの問題。これに関しては、基本的にはISASが今までやってきた方法に統合してやっていくのが望ましいと私は個人的に考えて

いる。それに対してコミュニティが反対だとも聞いていないので、ここに「ISASにプロジェクトを一元化し」と書いてあると理解している。宇宙科学プロジェクトに関して言えば、ともすると科学的なミッションに関しては、科学の議論がほとんどなされないまま、何か国民的人気とか、国策だとか、そういう格好で進められることには、非常に問題だと思う。そういうことをきちんと、これから議論して、予算をつけていくべきだろうと思う。

- 実業の世界から見て感じていることを申し上げたい。まず、今回の重点化、効率化の方針について、ある程度今までの議論を踏まえて、日本の強みや弱み、日本独自でやらなければいけないことや、海外と連携しなければならない、あるいは、連携してやった方がいいという国際協調などの観点が、いろいろ出てきていることは、評価したい。その上で、これは方針であり、方針は戦略であるとすれば、今後、実際の実施事項が、どの段階で、どう具体的に見えてくるかということが大変重要だと思う。また、ニーズとシーズのマッチングについて、例えば、準天頂衛星というテーマで落とし込んで頂きたい。まず技術開発のシーズについてお話しすると、準天頂衛星に関して、日本が技術的に強いところ、優れたところはどこで、これから更に強化すべきところは技術開発上どこなのかを明示すべき。それに対して国はどのような予算づけをするのか、民間はどのような協力をしていったらいいのかということがはっきりすると、我々は非常に動きやすい。一方でニーズについてお話しすると、この準天頂衛星を打ち上げると、こんなに良いことがたくさんあるということが、もう少し具体的に国民目線で、使う方の側から見たときにどんな良さがあるかをもっと明確に打ち出すべき。また、それに産業界がどう食いついてくるのか、ということも重要。産業競争力強化、新産業創出、日本ブランド復活といった言葉が「(1) 政策の重点化」のところに書いてあり、「(2) 政策の効率化」のところにも重複排除、官民連携、補助金、アンカーテナンシーといった言葉がある。我々国民として、あるいは産業を興す側として、こうした重点化・効率化がどのように経済の活性化につながるのか、あるいは、国民の利便性、利活用がどのようにふくらんでくるのかが見えると、理解が深まる。やはり宇宙開発をもっとやらなければいけないということになってくると思う。そういう具体的な展開の

方針と実施事項がどう出てくるかが大変大きなテーマだと思う。それをどう考えているか。

●準天頂衛星に関しては、WGで去年9月からずっと検討している。最終的に中間とりまとめにできるだけ具体的に書き込めるよう、例えば産業規模、どういったサービス、どの業種が入り込めるか、そういったところはできるだけ踏み込んで書きたい。

○是非、そういう展開にして頂ければ、この方針も生きるし、具体的に明示することにより、理解の程度が変わってくる。そういう展開を各々わかりやすく説明することがとても大事だと思うし、この会議の大変大きな役割ではないかと思う。

ここで葛西座長より次の発言があった。

・ 宇宙の世界は、大体安全保障でブレイクスルーをし、それが展開することにより、新しい需要が生まれてくるという流れになる。準天頂は先ほどの説明にもあったように、日米安全保障条約の問題等、さまざまな問題から、国としての安全保障あるいは災害に対する抵抗力強化といった要素から需要があるので、これを真っ先にやるべき。

・ ただそれだけではなく、それを打ち上げることにより、さまざまな産業への展開が可能になるかもしれない。その可能になりそうな種はここに書いてある。その種が、どう育つかまで書けと言われると、多分それはSFのような話になる。従って、そこは可能性を持っているということでもリスクをとって前に出てみる価値があるかないか、という決断の世界になる。なるべくわかりやすく、こういうことができそうだという話をするのはいいとして、それが必要条件として決定されるというのではなく、蓋然性の問題として理解して頂くしかないのではないか。

続けて次のような発言があった。

○その範囲では理解するが、国民への理解という点も考慮すべき。我々が産業として、そういうところに需要を拡大させるための技術開発をしたり、市場を創造するための努力をしないと、経済成長戦略に結び付かない。それについて、「この分野に力点がある」というようなインパクトを与えることが大変重要だと思う。そのためには技術開発のシーズのところが大変重要。こんなことを目的に開発をすると言われ

れば、では、それにうまく乗っかろうとするものをつくっていくという必要が生じる。

○今、委員がご指摘の点は、準天頂衛星の説明の時には、正確に国民に理解をもとめるということ。政策の議論としては、特に準天頂衛星の補強のところ、cm単位、秒単位でのいわゆる信号補強の部分で、私たちの専門家の議論として、将来、衝突防止の自動運転だとか、そういうものがいずれ可能になるのではないかとされている。また、特に震災で地籍みたいなものがなくなった場合や、どこに被災者がいるか、そういうものにも補強が使える。それが東日本という言葉になっていると思う。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 細野補佐官から安全保障の話が出た。委員からも、安全保障の問題はもう少し前に出していいのではという問題提起があった。これが1つのポイント。もう一つは、別の委員から、準天頂は他のものと並列ではなく、ある意味で最優先ときちんと分けて書いてもいいのではないかと話があった。また、整備された場合、民としての開発戦略や対応が分かるようにということを言われた。その辺は少し含めた書き方を工夫されたい。

続けて次のような発言があった。

○準天頂について。大事なプロジェクトで、進めるべきだと思う。3ページの体制整備と同時に大事なのは、利用をもっと開拓して、それを調整していくという作業。それから、やはりアジア地域での1つのプレゼンスをねらっているという観点からは、海外展開。そこまで視野に入れた、非常に広い、複数省庁にまたがるような作業をやっていかないといけない。それはやはり内閣府が実施するというのがいい。

○準天頂について、以前、7機とか4機とか、そういう話もあったと思うが、今回は言及しないのか。今の話では、これまでの流れでは準天頂が非常に重要で、優先事項であると、多くの委員がおっしゃったことのようにそれは結構だと思う。それだけ重要なのであれば、何年間を目途に、どの程度のスピードで何機を打ち上げるかということは、この重点化のとりまとめにおいても、書いておくべきではないか。その点はもう既に議論されていたのであれば、教えて頂きたい。

● 4機か、7機かというのはずっと議論しているが、事業計画の中で現

在検討中で、最終的に政務三役とも相談し、できるだけ書き込んでいきたい。

- 仮に4機になるとすると、ここに書いてあるようないろいろないい効果が4機でも実現するということか。7機あった方がいいというのは、ある意味ではそうなのかもしれないが、最低4機あれば、とりあえずは達成できるという含みで、検討の結果はどちらでもいいように扱っているということか。
- 程度の問題はあるが、ここに書いてある基本的事項は4機でも達成できる。
- リモートセンシングの質問だが、「ASNARO1」は観測幅が10kmだが、この「ASNARO1」はプライオリティが高いと言うが、「だいち3」の観測幅は50kmで、「ASNARO1」ではカバーするのにかなり時間がかかると思うが、そういったことも考えた上でプライオリティが高くなっているのか。
- 今は要するに、分解能の方を重視しているということ。特に、先ほどの防災、実際の災害対策という観点から、分解能が非常に重視されており、実際、今回もいろいろな省庁のいろいろな御意見があったが、分解能が非常に重視されているということであるので、まずはこれを打ち上げるということ。
- 現在の宇宙の国家戦略重点化の大きいタイトルが東日本大震災で括られているので、戦略としては短期的な話の内容になっているように感じるが、もう少し中長期的に考えた時、センサーはその「ASNARO1」で日本の国として大丈夫なのか。その辺はリモセンWGで議論をし、「ASNARO」と「だいち」はお互い、いい点、悪い点を比較し、国の政策としてプライオリティを決めた方がいい。
- ASNAROについては2012年打上げであり、既に完成してロケットの契約も終わっており、これをやらないという選択肢はない。その上で「だいち」については、ここに書いてあるように、準天頂などに比べれば劣るが、予算の中で余裕があればやるべきだろうと書き方。
- レーダの「ASNARO2」だが、ここは私が不勉強で情報を知らないのかもしれないが、ベトナム政府から同様のスペック衛星をODAで要請、とあるが、本当にこの「ASNARO2」がこう貢献すると決まっているのか。(→事務局より回答)

- 「だいち3」が本当にできるかどうか、これから検討するという話だが、例えば、リモセンWGで議論したと思うが、ハイパースペクトルセンサーのようなものは重要だという意見があったと思うが、全体の衛星が予算の都合で駄目になっても、そういう開発と一緒に無駄にならないように考えることは大事。
- ハイパースペクトルセンサーについては、当初は「だいち3」搭載を予定していたが、経済産業省では「だいち3」が成立しない場合には代替手段を検討すると承知。
- GCOM-Cの打上げを遅らせると書いてある、理由が書かれていない。理由は何か。
- 一連のリモセン衛星の中で全体の中で優先度を考えた時、他の衛星より劣るのではないかという判断。その下のGCOM-W2とも関連するが、環境監視ということなので、この辺は環境省のコミットをある程度検討すべきではないか。
- 「劣っている」という判断は、どこでしたのか。
- GCOM-Cの打上げを遅らせることについては、文部科学省とも事務的に話をさせていただいており、基本的にはこれで異存はないと承知している。
- 何のために遅らせるとか、促進するとか、ここでは理由が書いていないので、理由は何なのかと伺ったまで。また、この書きぶりだと、開発費用に環境省がコミットしていないから実施しないという理由のように読めるのだが、それは本末転倒。この計画が必要であるかどうかを、国家戦略として決めるのがこの会議ではないのか。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 今年のタイミングでどう考えるかという話である。来年度予算に向けて優先順位をつけていこうということ。優先順位は、至近の時期における予算を獲得する動きをするかしないかということではないか。

続けて次のような発言があった。

○そういう各省庁の予算取りのレベルの話をこの会議でやるのか？

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ トータルの予算が幾らでも膨らませる状況であれば、全部一緒に実施するということもあるかもしれないが、大震災などで予算制約

がありそうだという意味で読んで頂くとすると、その中で現実的に戦術的に要求していくものは自ずから絞っていかないと、何も取れなくなってしまう。また、既に予算がついているものは必要な措置をとるとしている。

- ・ これからやろうとしているものは、しばらくタイミングを見ながら検討を深めましょうという書き方。そう読んで頂くと、一応の振り分けができています。

続けて次のような発言があった。

○今の現実が宇宙基本法とずれていることから出発している。科学技術に偏り過ぎない意味でも、安全保障のことは書ける範囲で書いた方がいい。東日本大震災を踏まえてということで皆さんいろいろ御意見があるが、私が理解している範囲では、東日本大震災が起き、今、決められないではないかというニュアンスの発言があり、それは先送りをすべきではないということ。きちんと今回も結論を出すということで、東日本大震災という言葉が入ってきたという経緯だと思う。事務局はエッセンスを一生懸命まとめて下さったと私は個人的に理解している。ただ、宇宙科学のところ、説明を受けた時に、「はやぶさ2」みたいなものをやれという声があって「はやぶさ2」が始まったということを知って、一国民として非常にショックを受けた。そんなことで決まってしまうのかと。それで巨額の予算が動くということには非常にショックを受けた。やはり、宇宙科学予算の決め方について、もう少し言及すべきではないか。最後にもう一点、前回も申し上げたが、宇宙は公共事業と同じというのが率直な感想。1回予算取りをすると、余り効果も検証されずにずっと続く。今回プライオリティ付けをした後で、きちんと見直しプロセスを入れて頂きたい。それを一元的に管理する体制をとって頂きたい。

○今、委員が宇宙科学と「はやぶさ」のことをおっしゃった。ここの分け方だが、宇宙科学は有人、宇宙探査と一緒にできてしまっていて解りにくい。「はやぶさ2」は、トップダウンで決まった話、ボトムアップで研究内容を決める宇宙科学というよりは探査計画。宇宙探査は、これはNASAも含めて、1つのカテゴリーになっている。有人であれ、無人であれ、探査というのは1つの方向性であるが、宇宙戦略のロードマップ（何を求めてどこに進むのか）が日本の政策では明確で

はない現時点では、ここは段落を分けるべき。そうでないとわかりにくい。

国際宇宙ステーション（ISS）の書きぶりについて、この文章は感情論的な言葉が端々に入ってきてしまっている。大所高所で国の方針を出す文書として、格調が高くない。例えば「400 億円もの」とか、こういう言い方はどうなのか。「アジア諸国に費用負担を求めつつ」というのも露骨な表現ではないのか。このポジション・ペーパーの総論で、経済を含め、アジアのプレゼンスを出したいと書かれているが、ISSに参加している国は、アジアでは日本のみ。ISSはアジアの国際的プレゼンスを十分出しているという書き方もできるではないか。予算が400 億というのは、ISSで括るからそうなるが、400 億円はヒアリングのときにも説明を受けたように、うち250 億はHTVやロケットの予算であり、そこは将来に向けての基幹技術、ロケットシステムを含めた有人宇宙技術に研究開発や産業育成でも貢献している。

先ほど委員が、R&D、人材育成は当たり前なので書かなくてもいいとおっしゃったが、当たり前のことでも、やはりこういう文書が独り歩きすると、文書に忠実に何かをやろうとすると、抜けおちてしまうことになる。R&Dや教育は、今後とも持続可能で競争力を発揮できる宇宙プログラムを続ける意味で、どこかで書くべきではないか。

○宇宙科学とか探査の問題が出てきたが、一部に大変誤解があるような気がする。この宇宙科学のところで書いてあることは、全くそのとおりで、これまで宇宙科学において、理学、工学の学術的視点から検討し、ボトムアップでやってこなかったものは1つもなかったし、今後もそうだろう。一方、「はやぶさ2」はISASのミッションではない。それは、昨年、政策コンテストがあり、日本を元気にするための予算の募集があった。それに応募する形で予算が付いたもの。そういうものであり、宇宙科学のこの分野を、単に国民の支援があったから、宇宙科学のことを評価しないで「はやぶさ2」が決まったというのは誤解である。それとも関係するが、探査については、別個に書いた方がいいと思う。原案では、「主たる」がなくて「宇宙科学を目的としない」と書いてあったが、今日のものではそこが少し直って「主たる

目的としない」という書き方にはなつた。それにしても、宇宙科学と探査というのが対立的関係を持つかのような書き方になっており、そこは気になる。配布資料をご覧頂ければ、私の意見も書いておいたので、後でこれはご覧頂きたい。探査には、当然ある意味では科学も含まれる。従って、そこは対立する概念ではない。

ここで細野補佐官より次の発言があつた。

- ・ ISSの部分であるが、HTV 等はこのきっかけがあつたので、日本はこの分野で伸びたという面があると私は思う。
- ・ 一方で、そろそろISSのあり方を根本的に考えた方がよく、どういう費用負担のあり方がいいのか、またその効果をどう共有していくのかについては、アジア諸国とどう分担していくのかという議論はまさに必要。方向性はこれでいいと思う。
- ・ 当然、この文書はアジアの人々も読むわけで、そういう時代になっているということ積極的に捉え、日本としてはそういうスタンスで共有化しようとしているのだというニュアンスで書いて頂ければよいと思う。

ここで葛西座長より次の発言があつた。

- ・ 議論も大体出尽くした。この件については、一応ここで優先順位のようなものを付けているが、この基本的方向は準天頂も含めてよろしいと、とりまとめてよろしいか。

続けて次のような発言があつた。

○私自身も理解に至っていないが、「ASNARO」「だいち」といったところまで、委員の皆様がすべてこの方針でよいということなのか、それを判断するための情報が十分ではないのではないか。

ここで葛西座長より次の発言があつた。

- ・ 我々が当面している話は、今、来年に向けて何をしようかという予算の話と密接している。その意味ではどれも否定している訳ではない。少し検討を続けようというもの、これは予算化しようというもの、可能なら予算化しようというものという3段階に分けられる。その区分に問題がなければ、議論はまだ継続してやっていけばいい。書きぶりは、いろいろ今日御指摘があつたところを事務局が少し直すということで、基本がよろしければ、この次の第2の議題は、体制の問題に移りたい。これは1回ではなかなか

難しいかもしれないので、次回また体制の議論をやっていこうと思うが、仕切りをしておかないと前に進まないの、重点化、優先付けについての書きぶりは、ニュアンスを一部変えたり、強調したり、あるいはネガティブに書いてあるところを少しポジティブにするとか、ご指摘のあったR&Dや人材育成についての言及や、探査と宇宙科学の区分等を頭に置きながら字句修正をすることで、事務局が修正したのを見ていただくようにしたいと思います。

(3) 政府の宇宙開発利用体制について

[議事概要]

松井座長代理から資料2に基づき政府の宇宙開発利用体制に関する説明があり、議論を行った。ほとんどの委員からは内閣府に司令塔を作るという点に関しては賛意が寄せられ、特段の異論はなかった。また、各委員からは、主に以下のような意見が出され、次回、会合までに資料を修正して、改めて議論することとなった。

委員からの主な意見は以下の通り。

- ・ 予算は文科省と経産省にまず行き、それからまた内閣府に上げてくるという手続は、複雑で余り効率的でないような気がする。宇宙予算を内閣府が全部管理し、その予算を文科省、経産省がもらうという仕組みが可能であれば、政府全体の組織が合理化されていくと思う。
- ・ JAXAは内閣府なりに付けるなら付けるのでいいのではないか。あいまいで責任がはっきりしない体制は避けて頂きたい。別に文科省のままでいいという意見が強ければ、それはそれでいい。
- ・ 人事の採用は、内閣府が雇用している人は、I種だけではなく、全体合わせても30人ぐらいしかいない。人事配置とか、そういうことも含めて変えていかないと、内閣府に付けられようまくいくというものではない。その辺の組織論のこともよく考えて頂く必要がある。
- ・ 内閣府に一元的に集めたら、それで関係省庁の横軸がよく動くかといえば、そうではない。かなり強力なリーダーシップをきちんと内閣府が戦略を持ってやらない限りはだめだと思う。

- ・ 組織をつくったら力になるということはない。しかし、そこにいる人間が、日本の宇宙政策がこのまま公共投資のままではじり貧になる、そういう意気込みで宇宙政策を決定する。法律を変えても、組織をつくっても、縦割りとか、そういうことは内容を知らない人が皆議論をしているが、そこはやはりそこにいる人間が、日本の宇宙政策をやるという決定をきちんとやれば、政治もついてくるし、国民の支持もついてくる。日本の問題は、ばらばらにやっていること。このままでいくと、大震災の影響もあり、予算はじり貧になる。それで日本の宇宙政策はいいのかという危機感があり、今、始めている。いわゆる専門家が専門でやるのではなくて、政治任用として日本の政策はどうするのか、宇宙政策はどうするのかを決めるのが非常に重要。それは内閣府の中でそういう位置づけをする。それは作っていくプロセスの話。
- ・ 要は一元管理をし、1つ司令塔を置くというところであり、次はその人材をどうするのかという議論がある。「日本には大した人材がないので、そういう組織をつくっても、また別の象牙の塔ができてしまうだけだ」、そういう議論が前回あった。それではやはりだめ。まずそういう組織を作り、同時に人材をどう育てていくか、人材をどう選んでいくのか、が重要で、その人たちが本当の意味でオールジャパンの司令塔となり宇宙開発を進めていかないといけない。今、世界を見ても、日本は本当にそうになっていない。遅れをとっている。我々はいろいろな衛星で世界とつきあっているが、世界を見ると日本の状況については危機感がすごくある。この危機感を本当に皆さんに共有して頂きたい。そういう意味で、人材がないからだめとか、後ろ向きの議論ではなく、しっかりとした人材育成と人事体制を作ることが大事。相当ドラスティックなことをやらなければだめだと思って頂きたい。
- ・ 旧総理府にあった宇宙開発委員会は大変力を持っていた。宇宙長期計画も立て、毎年の宇宙実行計画も立てた。先ほど葛西座長がおっしゃった筋肉の部分は別ですが、いろいろなところから計画が上がってきたものを審議、承認し、しかもその結果を評価する、そういう大変強力な司令塔だった。これがなぜなくなったか分からないが、形として、そういうものが復活するのがよいと思う。

- ・司令塔の一元化には賛成。ただし、手足の部分まで入れてしまう巨大な宇宙庁的な一元化に関しては反対。宇宙というのは非常に範囲が広く、松井委員のペーパーに書かれている準天頂など衛星関係のものに関しては、一元化でき、そのメリットも多いと思う。しかし、末端部分での利用促進を考えると、100人いれば100通りの利用希望があるわけで、関係省庁は大きなところは文部科学省、気象庁など色々あるが、ゆくゆくは細分化してくる分野だと思う。
- ・調整財源は持つべき。かつ期待するのは、内閣府が他省庁より格が高い位置から各省庁を見渡し、各省庁の作業内容を全体的にモニターして、各省庁が何をやっているのかを把握し、指示できるという機能を構築する事が大事。
- ・司令塔がないからばらばら。だから司令塔をつくるというのは合意されていると思う。これまでのやり方でもだめというのも、多くの方が合意しておられると思う。官庁が持っている予算の2～3割を譲るとするのは、絶対無理。これを書いていること自体が、余りにも現実感がないので、B案はあり得ない。

[議事の詳細]

(○は委員発言、●は事務局発言)

- 今、A案、B案がある。B案の方では、①dで予算の2～3割程度の移管・計上及び必要な事業への配分ということが書いてあるが、これがよく分からない。予算管理についてはA案の①で、分担管理についてはB案の②という組合せでもいいのではないか。予算は文科省と経産省にまず行き、それからまた内閣府に上げてくるという手続は、複雑で余り効率的でないような気がする。A案で全体がそうならばそれはそれでいいが、いろいろ御意見もあり、B案の方もあるが、その場合に、①と②の組合せの必然性というのが見えない。それから、A案ではJAXAは内閣府所管になるが、B案に近くなれば、主務官庁が2つないし3つというのは、少し言葉の矛盾のような気がする。B案でも、JAXAは内閣府なりに付けるなら付けるのでいいのではないか。あいまいで責任がはっきりしない体制は避けて頂きたい。別に文科省のままでいいという意見が強ければ、それはそれでもいい。ただ、

主務官庁が2つ、3つというのは、余り意味がないように思う。また、先ほどの資料1の6ページの宇宙科学についての今後の話で、宇宙探査活動については宇宙開発戦略本部の下で全体の在り方を検討すべきとなっているが、宇宙開発戦略本部は内閣なので、誰がやるのかということとははっきり書いていない。資料1の方でも本当はきちんと書いていただいた方がいい。宇宙開発委員会は廃止するという方向性が決まっているようだが、すると、この宇宙開発利用推進連絡会議というところでそれをやるのか、それとも専門調査会という所がやるのか、それともまた別途に宇宙科学関係の専門委員会を作るのか、その点についても、きちんと書いて頂くのがいい。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ その辺は、かなり具体的に書こうかと思ったが、政治的にどういう結論が出るかということにもよるので、余り具体的なことまで詳しく書くのはいかがかと思い、あえて書いていない。
- ・ 宇宙開発委員会は、前回、委員からもお話があったが、かつては旧総理府にあり、日本の宇宙政策を全部議論していた。それはそれで、私の頭の中には望ましい姿の1つとしてあるが、今度A案みたいなものをつくったときに、どうしていくかというのは、余り具体的に書くのもどうかということだが、この戦略本部的、専門調査会的なものがいずれにしても必要だろう。ただし、これだけたくさん的人が入って議論する調査会のようなものが望ましいかとか、いろいろ問題がある。今のところ、そこまではまだ詰めていない。一番重要なのは、やはり政治的な決断としてどうなるのかが決まらないと、そこまで踏み込んだ書き方はできないと思う。
- ・ JAXAの主管については、私も1つが望ましいと思う。JAXAの人の話を聞いても、絶対に1つにしてほしいと言う。いろんなところが入ると、今でも大変だという話は聞くが、そこに関しては、これもかなり政治決断によるというところもあり、具体的には書いていない。
- ・ B案で宇宙政策の総合調整のための調整費として2～3割程度というのは、正確な根拠はなく、ただゼロでいいかというのと、ゼロではほとんど何もなくなる。「総合調整による政策の一元的な推進

が成功している例はなく」と書いたが、ここで推進するとすれば、ある程度の調整費を持たないと、実効的な効果はないということで、細かく書いただけのことである。

続けて次のような発言があった。

○御説明の意図はよく分かるが、専門調査会としてはこうだと、しかし、政治はこれとは別のやり方を政治の責任でやって頂くのは結構なこと。これだけの方々が集まっているので、きちんと意見は出すべき。

内閣府云々の話については、宇宙の専門の方々は余り御関心がないと思うが、内閣府というのは、過去 10 年間の間にもものすごく政治の中で大きく揺れ動いてきており、ある意味で組織としてお化けのようなものになってしまっているという問題点がある。内閣府設置法をご覧頂けば分かるが、60 条ぐらいあって、山ほど会議がくっ付いている。そもそもの設置の意図はそういうものではなかったと思うが、何かが重要だということと内閣府に何とかという委員会を山ほど作っている。しかも、人事の採用は、内閣府が雇用している人は、I 種だけではなく、全体合わせても 30 人ぐらいしかいない。人事配置とか、そういうことも含めて変えていかないと、内閣府に付けられようまくいくというものではない。その辺の組織論のこともよく考えて頂く必要がある。今、最後に委員がおっしゃった点も重要で、仮に内閣府に予算を下ろし、その予算を経産省、文科省に分けていくという仕組みができれば、少し政府の優先順位というのが分かると思う。

今、内閣府は、他の省庁と横並びか、ある種、上にある、そういう組織として位置づけているのかははっきりしない。従って、この宇宙についての予算は、内閣府が全部管理し、その予算について、文科省と経産省は内閣府から予算をもらうという仕組みがあれば、これはいろいろ財政法とかの難しいことがあると思うが、もし可能であれば、もう少し政府全体の組織が合理化されていくと思う。この宇宙の話を超える話かもしれないが、その辺もお考え頂いた方がいい。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ その意見を踏まえ、できる範囲でもう少し具体的なことも、次回ぐらいまでに書き込みたい。

続けて次のような発言があった。

○先ほど委員がおっしゃった、どういう部隊が司令塔として方針を決め

ていくのかを見える形にしないと非常に危険と思う。要するに、先ほどおっしゃっていたように、内閣府に一元的に集めたら、それで関係省庁の横軸がよく動くかといえば、そうではない。かなり強力なリーダーシップをきちんと内閣府が戦略を持ってやらない限りはだめだと思う。強大な縦割り組織を内閣府につくるだけの話になってしまう。また6ページのところで、例えば JAXA の所管のところで、権能がいわゆる文科省と経産省の方から移らない場合の監督官庁の話だが、権能が移管しない場合に、内閣府が監督官庁になり得るのか。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ 産業振興を J A X A の業務の中に書き込むとなると、経産省を入れるということになる。

続けて次のような発言があった。

○この文章の、初めの「仮に調整費の確保により」というところで、「権能を移管しない案（前述）を取る場合においては」という部分と、その後ろの項目が論理的に乖離している気がする。その場合、文科省と内閣府を追加すると、監督官庁が3つ入ることになる。権能を内閣府に移行しないのであれば、内閣府が監督する内容がないのではないか。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ 逆である。文部科学省と経済産業省の今の業務を移さないわけであるから、内閣府が主務官庁に入るべきだということである。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 各省は縦割りで人間を抱えてやっている。その筋肉の部分と、政策をつくる司令塔の部分と、2つに分けて考えたとき、司令塔は内閣府だろう。しかし、手足は各省庁だとしておく場合には、共管にしておかないとだめだというのが松井座長代理の意見だと思う。
- ・ 全部切り取って、宇宙庁を作るということになる、それは委員の言われたとおりになる。
- ・ 総合調整機能として予算調整を2割、3割の財源を移してやるというのがB案。政策策定だけやると言ったら、全然調整能力がなくなってしまうので、担保するために予算の一部をとというのがこの案だと思う。

続けて次のような発言があった。

○組織をつくったら力になるということはない。しかし、そこにいる人

間が、日本の宇宙政策がこのまま公共投資のままではじり貧になる、そういう意気込みで宇宙政策を決定する。法律を変えても、組織をつくっても、縦割りとか、そういうことは内容を知らない人が皆議論をしているが、そこはやはりそこにいる人間が、日本の宇宙政策をやるという決定をきちんとやれば、政治もついてくるし、国民の支持もついてくる。それほど大変なこと。だから、人間が決める。それで縦割りになるとかいうのは、内容を知らない人が言っていることで、そんな組織があり、人がいれば、日本の政策がうまくいくなんてことはあり得ない。日本の問題は、ばらばらにやっていること。このままでいくと、大震災の影響もあり、予算はじり貧になる。それで日本の宇宙政策はいいのかという危機感があり、今、始めている。そういう危機感を皆共有しながら、どうやればいいのか、何回も申し上げているように、いわゆる専門家が専門でやるのではなくて、政治任用として日本の政策はどうするのか、宇宙政策はどうするのかを決めるのが非常に重要。それは内閣府の中でそういう位置づけをする。それは作っていくプロセスの話。

○今の委員の指摘に関し、まずそのためには、宇宙が日本の将来を考えた国家政策として、本当に重要であるということを最初のところに打ち出さないと駄目。国家戦略は、種々の分野で作られている。エネルギーもそう。いろいろある中で、今、委員がご指摘のように、宇宙は、非常に包括的で、いろんな分野が入っており、その分野を進めることで日本を元気にできるということをまずしっかりと位置づけ、ロードマップを念頭に置いた理念を作り、戦略をたて、体制や、予算を議論すべき。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 宇宙基本法は、そういう法律のはず。
- ・ しかし、現実にそれを実施するプロセス、ステップが余り進んでいないので、今回のものは、それを一歩進めようという位置付けだと思ふ。従って、基本的な考え方はすでに出ているという認識をしている。

続けて次のような発言があった。

○そのとおり。宇宙基本法には、そう書いてある。しかし、現実には皆ばらばらで、縦割りでやっていて、こんなこと日本の宇宙政策はいいの

かという議論から始まっているわけで、その点では、それを共有し、意思決定を政治家の先生たちと一緒にやっていくということでやらないと、日本の宇宙政策に未来はない。

- 要は一元管理をし、1つ司令塔を置くというところであり、次はその人材をどうするのかという議論がある。「日本には大した人材がないので、そういう組織をつくっても、また別の象牙の塔ができてしまうだけだ」、そういう議論が前回あった。それではやはりだめ。まずそういう組織を作り、同時に人材をどう育てていくか、人材をどう選んでいくのか、が重要で、その人たちが本当の意味でオールジャパンの司令塔となり宇宙開発を進めていかないといけない。今、世界を見ても、日本は本当にそうになっていない。遅れをとっている。我々はいろいろな衛星で世界とつきあっているが、世界を見ると日本の状況については危機感がすごくある。この危機感を本当に皆さんに共有して頂きたい。そういう意味で、人材がないからだめとか、後ろ向きの議論ではなく、しっかりとした人材育成と人事体制を作ることが大事。例えばプロフェッショナルを作らないといけないのに、2年ごとに代わる人事だと、やはり世界で勝負できない。例えば、世界で周波数を取る人というのは、お互いにすごく長く付き合っているから交渉できるような状況になっている。それを2年交代で新しく入ってきた人が交渉できるかといったら、できない。そういうことも含め、本当の意味で宇宙はどうやっていくのか徹底的に議論し、それに必要な人材を育て、それに必要な人事体制をやらない限り、日本の宇宙開発は絶対に戻らない。世界での地位はどんどん下がるであろう、といつも感じる。その危機感を是非、皆さんに共有していただきたい。相当ドラスティックなことをやらなければだめだと思って頂きたい。
- 少し物事を単純化したい。今、議論の中で出ているのは、ともかく政策策定として、内閣府になるかと思うが、非常に強力な司令塔をつくるということ。これについては、ほとんどこの中でも異論はないかと思う。その形がどうかというと、旧総理府にあった宇宙開発委員会は大変力を持っていた。宇宙長期計画も立て、毎年の宇宙実行計画も立てた。先ほど葛西座長がおっしゃった筋肉の部分は別ですが、いろいろなところから計画が上がってきたものを審議、承認し、しかもその結果を評価する、そういう大変強力な司令塔だった。これがなぜなく

なったか分からないが、形として、そういうものが復活するのがよいと思う。司令塔部分をつくるということについては、ここでの議論というのは、もう収れんしているのではないか。まさに先ほどおっしゃった筋肉部分、この議論に集中できるのではないか。

ここで細野補佐官より次の発言があった。

- ・ 予算について。戦略本部事務局は、ここ数年頑張ったと思うが、やはりインセンティブをつけたり、国家戦略で何をやっていくのかというビジョンを示すのに常に限界があるのは、予算は各省が持っており、言っても予算要求はできないという点。従って、そういう意味で、2案が出ている、松井座長代理に出していただいた案でいうと、B案は若干中途半端な感が否めない。弊害の一部が解消するだけで全面的な解決にはならない。
- ・ 次に人事の問題。今、原子力に関与して思うのは、原子力は各々ばらばらで、各々人事も違うので、それをまとめ上げるのは至難の業で、方向性がなかなか出なかった歴史があり、まして今回のような事故の時には、なおさら難しいという経験をしている。従って、例えば内閣府の下に宇宙を扱う部門を設けたとしても、先ほど委員がおっしゃったように、内閣府の採用はわずかで、宇宙の専門家は経産省と文科省にいて、それぞれ出向してくるということになると、多分同じだろうと思う。従って、ゆくゆくは、そこで宇宙の専門家をしっかり採用して育てるという意味で、内閣府の下でより独立性の高い庁にするとか、何らか考えていかないと、この人事の問題は解決をしないと。ただ、それを作ったとしても、当面は人を出してもらうので、このA案に近い形でつくっていく意味はあるのではないか。
- ・ また、これから専門家の知見をどう生かしていくのかが必要で、それは余りまだ絵がはっきりしていないような気がする。宇宙開発委員会という名前は、過去の経緯からすると、若干手あかがついているので、それをそのまま使うとややこしいが、きちんとフルコミットしてくださる有識者の先生がいるといたないとでは大分違う。そこはまだ整理し切れていない部分として、課題として残っており、幾ら政治判断をするといっても、大臣も代わるし、事務局が全部判断できるかというところできないわけで、何かそういう

ものはしっかりした組織として必要だろうと思う。

続けて次のような発言があった。

○司令塔の一元化には賛成。ただし、手足の部分まで入れてしまう巨大な宇宙庁的な一元化に関しては反対。宇宙というのは非常に範囲が広く、松井委員のペーパーに書かれている準天頂など衛星関係のものに関しては、一元化でき、そのメリットも多いと思う。しかし、末端部分での利用促進を考えると、100人いれば100通りの利用希望があるわけで、関係省庁は大きなところは文部科学省、気象庁など色々あるが、ゆくゆくは細分化してくる分野だと思う。

従って、内閣府に強力な司令塔機能を作り、そこがきちんと、他省庁と一緒にではなく、別格という形にし、各省庁がやっていることに対し、口出しがいろいろできる体制をとれば、実行部隊はそれぞれのところに置いておいた方が、長い目で見たときのすそ野の広がり方が広い。従って、それも考えと、B案のようなもので、一元化した強力司令塔については、是非内閣府で主導権を持ってやるべきだと思う。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 調整財源みたいなものを持つのはどうか。

続けて次のような発言があった。

○調整財源は持つべき。かつ期待するのは、内閣府が他省庁より格が高い位置から各省庁を見渡し、各省庁の作業内容を全体的にモニターして、各省庁が何をやっているのかを把握し、指示できるという機能を構築する事が大事。JAXAの全てのプロジェクトを内閣府が行うと言うが、内閣府にそれを抱えて、マッスルワークまでやっているのと、脳の部分、司令塔の部分がだめになる。司令塔は司令塔で強力につくればいいのではないか。

○司令塔がないからばらばら。だから司令塔をつくるというのは合意されていると思う。これまでのやり方でもだめというのも、多くの方が合意しておられると思う。平成20年から3年間もかかって、もっと前から議論しておられるとかもしれないが、入り口でこれだけ議論している会議も、実はたくさんあるのかもしれないが、珍しいのではないか。変えたくない方が頑張っているのだと思う。5ページの①のd) 官庁が持っている予算の2～3割を譲るというのは、絶対無理。これを書いていること自体が、余りにも現実感がないので、B案はあ

り得ない。

○内閣府は、自分の中に自分が手取り足とりやらなければいけないような機能を置いたら司令塔としての動きが取れなくなる。また、省庁が自ら行う利用促進の成功例は「ひまわり」衛星と気象庁と思う。各省庁に任せられる実施内容まで内閣府が行っていると、いつまでも独り立ちしない子どもを内閣府が抱えることになってしまう。独り立ちできるものは独り立ちさせ、官庁がやらなくていいものは全部民間に持っていくというスキームを、内閣府とか官邸は積極的に詰めて頂ければいい。

○これは内閣府と文科省のことで、今の実行部隊の関係ではないのではないか。

ここで細野補佐官より次の発言があった。

- ・ これまでの議論を少しだけ御紹介したい。利用は文科省、経産省だけではなくて、各省にある。総務省、国交省もある。最近では防衛省も利用している。利用省庁まで全部吸い上げて巨大な機関をつくるというのは無理だし、やるべきでもない。一方で、例えば、開発、整備、運用とか、どういう衛星を上げるかとか、どういうロケットで打つかとか、そういうことは、むしろ一元化した方が戦略ができるのではないかという議論。

続けて次のような発言があった。

○戦略は一元化するべきである。ただ、何をやるべきかは、各省庁から、また、民間に裾野が広がっているところの利用者から声を吸い上げない限り、司令塔であっても判断ができない。司令塔の下に、利用の実質面をフィードバックするサイクルまでも入れてしまうと非常に難しいことになる。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ よく読んで頂ければいい。各省庁の利用の取り組みを推進するなど全部を入れて、きちんとやりましようとしてある。

続けて次のような発言があった。

○すると、A案しかないという意味か。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ 内閣府の機能の中に、利用のコミュニティの意見を全部吸い上げてということを書いてある。

続けて次のような発言があった。

○利用の情報を吸い上げるとき、利用促進の実施部隊が内閣府内部にいるのか、外部にいるのかの違い。利用促進実施者も含めて一元化ということか。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ 利用省庁も含めて一元化とは書いていない。ここでは、文部科学省と経済産業省の宇宙開発部門を一元化してはどうかと書いてあるもの。利用に関しては利用コミュニティの意見を内閣府に機能として集約するということが必要と書いてある

続けて次のような発言があった。

○その辺の言葉の定義があいまい。一元化といっても、皆各々が一元化に抱く内容が違う。

ここで松井座長代理より次の発言があった。

- ・ この専門調査会で、A案が良いというのであれば、私は全然A案で構わないと思う。その場合、もう少し具体的な案を作成し、JAXAの主管は内閣府にあるというような具体的な結論が出れば、次回までにそれを用意することはやぶさかではない。

ここで葛西座長より次の発言があった。

- ・ 議論がいろいろ出たが、6月30日に、今日の議論を論点のポイントに整理し、次回それを土台にして、もう一回議論をするということによろしいか。（「はい」と声あり）
- ・ では、議題2はそのようにさせて頂く。議題1の方は、一応の優先順位は資料1のような形でつけるが、書き方等についてのニュアンスその他は修正する。もう少し踏み込んで言うところもあるし、柔らかく言うところもあるし、ネガティブさを少しでも減らして、ポジティブにするようなところもある。その辺は、事務局の方で整理して頂く。
- ・ また、先ほどの話にあったように、24年度予算で優先度の高いもの、優先度が高いものを実施した上で宇宙予算上可能であれば実施するもの、今後検討を継続しようというもの、という3つの分け方の部分はよろしいか。（異議の声なし）
- ・ それでは、時間となったので閉会したい。次回、最後とりまとめの議論を行うことになっているので、その中で具体的なさまざまな

論点について議論を深めると共に、宇宙開発利用体制の結論を得て
いきたい。

・ 事務局から何か御連絡があれば、どうぞ。

●次回は6月30日に開催する。

(了)